

「ゼロカーボンシティしもかわ」（気候非常事態）宣言

～2050年二酸化炭素排出実質ゼロ～

私たちの地球は今、地球温暖化に伴う「気候変動」によって、重大な危機に直面しており、世界各地で、干ばつや豪雨、海面の上昇、熱波による山火事、大型台風などの想定外の甚大な自然災害が多発するとともに、今後においても、深刻な食料の不足や生物多様性の損失など、様々な影響が危惧されています。

このような危機的な状況は、人類全体の存亡に関わる「脅威」であり、これからの「未来世代」に豊かな地球を引き継ぐことが困難になると懸念しています。

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）においても、「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない。」と報告されており、私たちの生命や財産、自然を守り後世へ引き継ぐため、パリ協定では、「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5℃に抑える努力を追求する」ことなどが示され、その達成のため、2050年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロにする必要があるとされています。

このような状況のもと、我が国においても、2050年までに二酸化炭素の排出実質ゼロを達成し、脱炭素社会の実現を目指すとともに、2030年度の削減目標を、2013年度から46%削減することとされたところです。

下川町は、循環型森林経営の取組を基盤に、環境モデル都市、環境未来都市、バイオマス産業都市等の選定等を受け、これまでも二酸化炭素排出削減や森林吸収など地球温暖化防止につながる先駆的な取組を進めてきたところであり、SDGs未来都市として、「2030年における下川町のありたい姿」の実現に向け、持続可能な地域社会の創造を目指しさらなる取組を進めているところであります。

今後におきましても、本町の財産である森林（もり）と大地と人を守り育てながら、先人から受け継いだ自然、英知、歴史や文化、伝統を未来世代に引き継ぐため、多様な主体とともに、学び、力を合わせ、支え合い、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの活用、エシカルな消費や自然環境の保全、地域資源を活かした取組を進めることによって、「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ（ゼロカーボン）のまち」を目指すとともに、持続可能な地域社会を創造するため、積極的に取り組むことをここに宣言いたします。

令和4年3月

下川町長 谷 一 之